

SANNO SPORTS MANAGEMENT

SPORTS MANAGEMENT RESEARCH CENTER, SANNO UNIVERSITY, JAPAN



Vol.
03

FEATURE
「湘南から世界へ」

産業能率大学 スポーツマネジメント研究所

SANNO SPORTS MANAGEMENT

SPORTS MANAGEMENT RESEARCH CENTER, SANNO UNIVERSITY, JAPAN

Vol.
03

From Shonan to the world!



SANNO UNIVERSITY

マネジメント理論と実践を柱に ビジネスプロフェッショナルを育成

産業能率大学は、世の中で実際に役に立つ能力を育成する実学教育を根幹としています。
社会人・職業人としての基本的な能力やビジネスの実務知識とスキルを身につけ、
また、主体性を持つ自立したビジネスパーソンとしての教養を養うため、
「真剣に取り組む力」「実行する力」「深く学ぶ力」に焦点を絞りカリキュラムを設計しています。
また、コンサルティング機関である総合研究所と連携し、
ビジネスの最新情報や最先端の動向を教育に取り入れるべく企業や団体との提携に取り組むなど、
産業界に最も近い大学として学外とのコラボレーションを積極的に進めています。



CONTENTS

FEATURE 「湘南から世界へ」

- 03-04 **01** ゆずれない夢に向かって
女子ビーチバレー 溝江明香選手 インタビュー
- 05-06 **02** 日々の練習が世界につながる
湘南ベルマーレ 菊池大介選手・遠藤航選手 インタビュー
- 07-08 **03** 未来へ繋がる子どもたちへ
- 09-10 **04** SANNOスポーツマネジメントのあゆみ

RESEARCH REPORTS

- 11-12 **05** エクリチュールとしてのサッカーノート
- 「考えるサッカー選手」の育成支援をめざして -
- 13-14 **06** 日本のプロ・スポーツが抱える課題
- bjリーグを中心として -
- 15-16 **07** スポーツ教室の運営補助を通じて培われる社会人基礎力
- 17-18 **08** ビーチバレーの普及に向けた「調査」と「現場」との連携2
- 19 **09** 将来を考えた指導と環境づくり
- 20 研究員紹介・編集後記



Sayaka MIZOE

「何を犠牲にしてもビーチバレー」
そのくらい覚悟がなければ出場できない
それがオリンピック

01

ゆずれない夢に向かって

女子ビーチバレー 溝江 明香 選手 インタビュー

インタビュー・文：小野田 哲弥

2012年のロンドンオリンピックを目前に控え、熾烈な闘いが本格化してきた女子ビーチバレー。その中であってオリンピック日本代表候補の筆頭に挙げられるのが、田中姿子&溝江明香ペアである。昨年、経験豊富な田中姿子選手とパートナーを組んで日本最高峰であるJBV ツアーを制し、新人賞にも輝いた「期待の新星」溝江明香選手に話を聞いた。

「オリンピックでのメダル獲得」が夢

— 昨年はJBV ツアーでのグランドチャンピオン、おめでとうございます。今年はディフェンディングチャンピオンとして、どのペアからもライバル視されて大変なシーズンになりますね。

溝江：ありがとうございます。でも、JBV ツアーのレベルが上がることで自体は歓迎です。特に外国人選手にはもっと参加してほしいですね。ルール上は海外チームもエントリーできるのに、これまでのところ、知られていないのか、あまり参加者がいません。私たちが優勝できるかどうかよりも、より高いレベルの試合経験ができる方が大事だと思っています。

— なるほど。国内優勝よりももっと高次の目標があるということでしょうか。昨年は日本代表としてアジア大会にも出場されましたが、その経験はいかがでしたか？

溝江：実際に日の丸を背負ってみて、「勝ちたい」じゃなくて「勝たなきゃダメ」くらいの重みを感じました。私のプレーだけでなく行動などを見て、海外選手やメディアは「日本人はこういう

ものだ」と捉えてしまうので、それだけの責任を負っていると思います。ただその一方で、代表になった時点で満足するという気持ちはないです。もちろん日本代表に選ばれることはすごく光栄なことですが、それを目標にやっていないので。目標はあくまで、オリンピックに出てメダルを獲得することです。

夢に賭ける決心

— 小さい頃からオリンピック出場が夢だったのでしょか？

溝江：もともと海外に興味はありましたが、小さな頃の夢は外国に行って日本語教師になりたいといったものでした。高校時代もインドアで春高を目指してはいましたが、東京都大会で負けてしまい、とてもオリンピック出場を目指すなんて立場にはありませんでした。

— では、いつ頃から意識するようになったのでしょうか？

溝江：産業能率大学に入学を決めた時ですね。高3の夏にマドンナカップ^{※1}で優勝した時「意外と打てるもんだな」とは感じましたが、川合俊一さんと庶さんに「ビーチバレーは経験が物を言う競技なのに、若い頃から本格的に始める選手は日本にはまだいない。平塚^{※2}も近く、学内にコートがある産能大ならオリンピックを本気で狙える」と言われて、私も本気で意識するようになりました。

他の人にはないチャンスが自分にあるんだと、見逃すより

も掴んだ方がいいなって。でも元々は教師になろうと思っていたので、教員免許を取れる大学じゃなくてとても悩みました。ただ今になってみれば、退路を断つことができ良かったと思います。「何を犠牲にしてもビーチバレー」そのくらい覚悟がなければ出場できないのがオリンピックなので。

田中姿子選手とのペア結成で “夢”が現実的な“目標”に

— そのオリンピック出場ですが、「経験が物を言う」とおっしゃっているように、ある程度長期スパンで考えていたと思います。現実的に考えられるようになった転機はありますか？

溝江：姿子さんとペアになれたことが大きいと思います。ツアーで対戦した選手の中で、スイングも動きも速くて、自分が一番上手いと思う選手が姿子さんでした。その姿子さんと組めたことで、お互いが目指すところ、目標設定が「ロンドン五輪」に統一されたからです。

— 将来的な夢（オリンピックでのメダル獲得）に向けた、今の目標について聞かせてください。

溝江：ワールドツアーに参戦し、海外選手と試合をしてみて、日本のビーチバレーとはまるっきり違う競技のように感じてしまいました。日本では簡単にショット^{※3}で点を稼げてしまいますが、世界では高いブロックや、サーブの正確性、決定率を意識しないと通用しない。

なので仮に国内の大会であっても、格上の外国人が相手だと想定して、もう一歩自分に厳しく、もっと相手が嫌がる場所に精度の高いスパイクを打つとか、そういう意識を常に持ちながらプレーすることを今年の目標にしたいと思います。

「リセット」の仕方を学んだ 2010年シーズン

— 昨年、田中選手と組んでからも5月の愛知大会（大日本印章オープン）での初優勝から9月の福井大会まで優勝できない日が続き、随分つらかったのではないかと思います。しかしその後は連続優勝をはじめ、勢いが戻ってきましたね。何かきっかけはあったのでしょうか？

溝江：愛知で優勝してからは、海外に行って、1週間だけ日本に帰って来て大会に出て、その大会が終わったらまた海外…という生活を繰り返していました。

自分の不調には気づいていましたが、何もかもが今までにない経験なので、その原因が時差なのかプレッシャーなのか、自分でもわからなかったですね。トップツアーには先輩しかいないので、友達のように気軽に接することもできません。それが福井の前に、3月にシーズンインしてから初めて、自由になれる3週間があったんです。そこで、試合だけじゃなくて練習に打ち込むこともできて、オフもあって、自分のリズムを取り

戻せたというか、メンタル面が安定して、余裕ができてきたんです。

— その3週間までは、自分一人で抱え込み過ぎていたということでしょうか？

溝江：そうですね。日本で家族や友達と話せたことで、「次の試合にしっかり挑もう」という気持ちの切り替えができるようになりました。でも別に選手としての悩みを聞いてもらったりするわけじゃないんです。ただ単に、たとえば「海外に行くと、こういうのがなくて困るんだよねー」とか、そういったたわいもない話なんですよ。でも、一人で煮詰まるのではなく、親しい人との会話で発散して楽になることを覚えたことは、去年を振り返ってみて、意外と一番重要なポイントだったかもしれません。

溝江明香選手の主な戦績（2010年4月以降）

| 年 | 月 | 大会名 | 戦績 | ペア | |
|------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------|--------------|---------------|
| 2010 | 4月 | アジアサーキット 第1戦 | 9位 | 田中 (エコ計画) | |
| | | アジアサーキット 第2戦 | 準優勝 | | |
| | | アジアサーキット 第3戦 | 4位 | | |
| | 5月 | JBVツアー第1戦 東京オープン | 5位 | | |
| | | JBVツアー第2戦 ファイテンビーチバレー 大日本印章オープン | 優勝 | | |
| | | FIVBワールドツアー 第2戦上海オープン | 41位タイ | | |
| | | FIVBワールドツアー ソウルオープン | 41位タイ | | |
| | 6月 | FISU第5回ビーチバレー 世界大学選手権大会 | 17位タイ | | 古川 (神戸学院大) |
| | | FIVBワールドツアー モスクワ大会 | 41位タイ | | |
| | | FIVBワールドツアー スタバング大会 | 33位タイ | | |
| | 7月 | FIVBワールドツアー クラクフ大会 | 41位タイ | | 田中 (エコ計画) |
| | | Master Card ビーチバレー ジャパン 第21回全日本ビーチバレー 女子選手権大会 | 5位タイ | | |
| 8月 | FIVBワールドツアー ヤブロンキ大会 | 41位タイ | | | |
| | FIVBワールドツアー オランダオープン | 41位タイ | | | |
| | JBVツアー第4戦 ふくいカップ グランドスラム高浜大会 | 優勝 | | | |
| 9月 | JBVツアー第5戦 呉オープン | 優勝 | | | |
| | JBVツアー第6戦 霧島酒造オープン | 準優勝 | | | |
| | JBVツアー第7戦 ビーチバレー川崎市長杯 | 優勝 | | | |
| | JBVツアー第8戦 ペポニアビーチバレー ファミリーオ館山カップ | 3位 | | | |
| 10月 | AVCアジアチャンピオンシップ | 3位 | | | |
| | FIVBワールドツアー サンヤオープン | 25位タイ | | | |
| 11月 | FIVBワールドツアー ブーケットオープン | 33位タイ | | | |
| | AVC中国香港アジア 女子ビーチバレー大会 | 準優勝 | | | |
| 12月 | FIVBワールドツアー サンヤオープン | 41位タイ | | | |
| | FIVBワールドツアー 上海オープン | 33位タイ | | | |
| 2011 | 4月 | 第12回 サミラ アジアツアー大会 | 3位 | 田中 (エコ計画) | |
| | | FIVBワールドツアー サンヤオープン | 41位タイ | | |
| | 5月 | JBVツアー第1戦 ファイテンビーチバレー 東京オープン | 準優勝 | | |
| 6月 | JBVツアー第2戦 ファイテンビーチバレー 大日本印章オープン | 優勝 | | | |
| | FIVBワールドツアー 上海オープン | 33位タイ | | | |
| | FIVBワールドツアー ミュンヘンオープン | 41位タイ | | | |

※1 「マドンナカップ」… 「ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会」の通称。夏目漱石の小説「坊ちゃん」の舞台・愛媛県で開催される大会のため、ヒロインの名前に因んでこう呼ばれる。
※2 「平塚」… 湘南ひらつかビーチは、我が国においてビーチバレーが最も盛んに行われている海岸の一つであり、オリンピック出場選手の多くも平塚を拠点に活動してきた歴史がある。

※3 「ショット」… スパイクのような強打ではなく、相手の意表を突き、コートの空いている部分を狙ってボールを置きにくいようなプレーのこと。

夢ではない将来ビジョン

— オリンピック出場を夢見ているスポーツ選手は多いと思います。有力バレーボール選手のインドアからの転向についてはどう感じますか？

溝江：世界で勝つためには大きな選手と対戦した方がいいので歓迎です。ただ消極的な考えでインドアから来るというのは良くないと思います。本気で“ビーチバレーにすべてを賭ける”ベアが増えて、真剣勝負で切磋琢磨していけたら、もっと国内のレベルも上がると思っています。

— 最後に「オリンピックでのメダル獲得」という最終目標に向けた将来設計をお持ちでしたらお願いします。

溝江：40歳を過ぎて現役で活躍するトップ選手もいます。私は35歳になるまで考えても、22、26、30、34歳と4回オリンピック出場のチャンスがあります。ビーチバレーは引き出しが多い方が勝つ競技なので、経験でどんどん吸収して、相手の癖を即座に見抜き、裏を突くようなプレーをもっとできるようになりたいです。

それに加えて、1試合を通じてジャンプサーブを打ち続け、どんな状況でもスパイクが打てるように、フィジカル面も強化したいです。その総合的なピークを30歳の時に持つてくるイメージで、技術と体力を磨いていきたいと思っています。

— 今年の活躍、そして夢への第一歩としてのロンドン五輪出場、期待しています。

溝江：はい、頑張ります！



(2011年2月3日、産業能率大学湘南キャンパスにて)

インタビュー後記

これまでインドアからの転向者が一般的だったビーチバレー界に、高校卒業時点で純粋な競技者として本格参戦した溝江選手は、先人なき地に果敢に飛び込んだ開拓者（パイオニア）といえるだろう。しかし確固たる信念を持って自らをマネジメントし、前例なき苦難を一つ一つ乗り越え日々成長を遂げていることを肌で感じた。

夢は確かに大きい。だが最後に口に「30歳の時に集大成」という言葉に、性急でも先送りでもない、地に足の着いた問題解決姿勢が窺える。「周りの人に感謝することを忘れてはいけない」という母の教えを絶対を守りたいと語っていた溝江選手。日本代表に相応しい謙虚さと礼節を保ちながら、オリンピックの舞台でアグレッシブなプレーを見せてくれる日が待ち遠しい。

▶ 溝江 選手へのエール

世界標準に日本らしさを加えろ！

川合 庶
産業能率大学女子ビーチバレー部ヘッドコーチ

かわい・ちかし
1965年生まれ。兄・俊一とともに日本のビーチバレー界を牽引してきた先駆者の一人。1993年にアジアサーキット優勝、1999年にビーチバレージャパン準優勝。2001年の現役引退後も湘南ベルマーレビーチバレーチームのGMなどを歴任し、後進の育成にあたる。2007年より現職。



高校時代の溝江を見て、その高い身体能力と運動センスに惹かれてスカウトしたが、まさかこんなに早くオリンピック出場を目指せる位置に来るとは思いも寄らなかった。嬉しい誤算だ。しかし、無条件で出場資格の得られる<世界ランク16位>に入るのは、今の段階ではまだ厳しい。したがって現実的には<アジア大陸枠>での出場を目指すことになるだろう。狙うは「アジアNo.1」だ。

アジアNo.1になるためには、世界標準のパワーや瞬発力を身につけるといった、フィジカル面の強化は言うに及ばない。それに加えて、身長差などの如何ともしがたい部分をどう補うかがより重要な課題となってくる。日本バレーの伝統は、「団結力・創意工夫・粘り強さ」であり、それはインドアもビーチバレーも変わらない。パートナーとの意思疎通を忘れず、頭をフル回転して独自の技術を開発し、諦めずに喰らいつくプレーを維持できれば、必ずや勝機を握めると確信する。

世界一が相手でも、勝てるチャンスはある

田中 姿子
プロビーチバレー選手（エコ計画）

たなか・しなこ
1975年生まれ。バレーボール選手として日立ベルフィーユやNECレッドロケッツ、さらにロシアのディナモ・モスクワで活躍。2001年から2002年にかけて、日本代表（全日本選手）として世界選手権に出場した経歴をもつ。2004年にビーチバレーに転向し、2006年のドーハ・アジア大会では銀メダルを獲得。



世界的に見ても女子ビーチバレーで飛び抜けた選手はいないように思う。実際に小泉（栄子）さんと組んでいたときには、現在世界ランク1位の中国ペアに勝ったこともある。だから基本的なレベルを上げ、細かい精度を詰め、頭を使って相手チームの癖や、当日の調子などを瞬時に見抜くことができれば、どのペアが相手でも勝てる可能性はあると思う。

去年（2010年）新しいペアを探すと、他の選手と組むことはまったく考えなかった。まだまだ成長しそうな明香と組むことがチームとしての“のびしろ”が最も多いと感じたからだ。たとえば明香がこれまで決め切れなかったスパイクを決められるようになるといった、本当に小さな技術の向上で、一気に上位に上がれるのがこの世界。明香とは常に、ワールドツアーの本戦で一戦でも多く勝つことを目標にしたい。その意識を保っていけば、おのずとロンドン五輪出場という大きな目標の達成も見えてくる。

02

日々の練習が世界につながる

湘南ベルマーレ 菊池 大介選手、遠藤 航選手 インタビュー

インタビュー・文：木村 剛

今回取材させていただいた湘南ベルマーレの菊池大介選手、遠藤航選手はU-16から日本代表に選ばれ、以降、何度も日の丸を背負った戦いを経験してきた若者です。その2人に率直に「世界」について語ってもらいました。

日の丸を背負った戦い

— お2人も早くから日本代表を経験されていますが、日の丸を背負っている実感とか、これが世界だなと感じた“瞬間”はありましたか。

菊池：確かにユニフォームに日の丸が入っていると、A代表と同じユニフォームなので責任感みたいなものは強く感じますし、そのユニフォームを着たときは嬉しかったですよ。でも、まだヨーロッパの本気の「世界」というものは味わっていません。アジアでは技術的には通用するとは思いますが、世界というのはもっと上だと思います。

遠藤：日の丸を背負っているというプレッシャーはありますが、それよりも代表に選ばれることが喜びで、（今では）プレッシャーをうまく緊張感にかえることができていると思います。菊池選手も言ったように、技術レベルではそれほど差は感じませんでしたが、試合に対する執着心みたいなものが違うのかなと感じたことがあります。

日々の練習の中で

— では、世界で通用する選手になるために、どこをレベルアップしていきたいと思っていますか。そのために日々の練習の中で、心がけていることはありますか。

菊池：求められているのは、僕の場合、ゴール前の仕事です。でもそれが難しいですね。とにかく今あるたくさんの課題をあせらず1つ1つ練習でクリアしていくことを心掛けています。

遠藤：僕も足りないところはたくさんありますが、一番レベルアップしたいのは予測力という状況判断をする能力をもっと高めていきたいと思っています。そのためには、練習をきちんとやって、少しでも多く試合に多く出るしかないかなと思います。

菊池：よく言われているのですが、早く起きて、練習して、早く寝て、というのをきちんと繰り返すこと。結局、重要なのは日常のサイクルを崩さないで生活することが大事だと思って練習しています。

今後の目標

— 最後に、今後の目標について教えてください（5年後の自分を思い浮かべてと告げると、3分間の熟考後、次のように答えてくれました）。

菊池：いずれは海外でやってみたいという気持ちもありますが、何より今の自分に足りないものがありすぎるので、日々の練習の中でそれを克服し、とにかくチームに貢献していきたいです。まず試合に出て、1年でJ1に復帰することが一番の目標ですね。そして5年後はJ1で実績を残している選手になっていたいと思います。

遠藤：僕もいずれは海外へ出たいという気持ちもありますが、5年後だったら、オリンピックに出たいなと思います。でもそのためには、日々の練習が大事。菊池選手と同じように、試合でチームに貢献していくことが、それにつながっていくと思います。

— 最後の最後に、今年の俺たちのこれを見てくれ！を一言。

菊池：相手チームが嫌がる怖いプレーを心掛けて、前に出ますので、そこを見て下さい。

遠藤：自分の武器は、ビルドアップ（守備から攻撃へ移行する時に行なう攻撃の組み立てのこと）なので、そこを見て下さい。

— 練習でお疲れのところをありがとうございました。今後の活躍を期待しています。

菊池×遠藤：どうもありがとうございました（×2）

インタビュー後記

とにかく2人も、明るくて爽やかな印象を受けました。内からあふれてくるエネルギーのようなものが感じられます。意外だったのは、将来の目標を聞いた時、2人も悩んだ末に、いつかは海外でプレーしたいという言葉もありましたが、何よりも日々の練習や経験を積むこと、チームに貢献することを第一に挙げていたところでした。早くから日本代表を経験した分、彼等にとって、日の丸を背負うことや世界と勝負することは決して夢や目標ではなく現実です。そのステージを想定しながら、自分の目の前、足元を見ていることにたくましさを感じました。

菊池 大介 選手（写真左）

きくち・だいすけ
91年4月12日、横浜市出身。'06 U-17、'07 U-16日本代表、'07-'08にJ2歳年少得点を記録。'09 U-18、'10 U-19日本代表。'07より湘南ベルマーレトップチーム登録。好きな食べ物は、モスバーガーの海鮮かきあげバーガー。好きな選手は、トマシュ・ロシツキー（アーセナル）。

遠藤 航 選手（写真右）

えんどう・わたる
93年2月9日、横浜市出身。'09 U-16日本代表、'10 U-17日本代表、U-19日本代表、'10より湘南ベルマーレトップチーム登録。ポジションはディフェンダー。好きな食べ物は、試合前に必ず食べるバナナ。好きなサッカー選手は、ジョン・テリー（チェルシー）。



03

未来へ繋がる子どもたちへ

文：渡邊 隆嗣 / 中川 直樹

ジュニア選手を中心として、グローバル社会で活躍できる人材をスポーツの活動を通じて育成することを目指す「Education through Sport」*1の動きが活発になっています。本学スポーツマネジメント研究所では、子ども達の未来に繋がるスポーツの普及を目指して活動しています。

スポーツの意義

スポーツは、世界の人々に大きな感動や楽しみ、活力をもたらすもので、言語や生活習慣の違いを超え、人類が共同して発展させてきた世界共通文化の一つです。

例えば、「サッカーは世界の共通言語」と言われるように、全世界 200 以上の国と地域でプレーされていて、その競技人口は 2 億 4000 万人を超えるとも言われています。さらに近年ではのべ 300 億人もの人たちがワールドカップを視聴し、母国や応援国の活躍に一喜一憂しています。

内閣府が行った体力・スポーツに関する世論調査（2009 年 9 月発表）によりますと、「国際大会での日本選手の活躍に関心がある」と回答したのは全体の 86.7%にも上り、さらに「国際大会を我が国で開催すること」について好意的な回答をしたのは 89.4%でした。スポーツが我が国においても国民に対して楽しみを与え、国際社会を生きる日本人に誇りと活力をもたらしていることがこれらのことから窺えます。

子どもを取り巻くスポーツ環境

子ども達が、身体的、精神的および社会的な健康を目指す上でスポーツへの参加は非常に貴重な体験となるでしょう。しかしながら日本における運動習慣は、小・中学生では運動をしている子どもと

していない子どもの 2 極化が進んでいるのが現状です。特に女子では、小学生で 1 週間の総運動時間が 60 分に満たない子どもが全体の 22.6%、そして中学生では 31.0%を占めていて 2 極化が顕著化しています。

子ども達がスポーツに参加しない（できない）理由には、施設や場所の不足、少子化の影響、さらには指導者不足、保護者の学力偏重、遊びの変容などが挙げられます。こうした状況を改善するために、国や地方自治体、スポーツ関係団体等により子どものスポーツ参加率を高めるための様々な試みが行われています。

一方、スポーツに積極的に取り組んでいる子ども達に影響を与えている要因には、国内はもとより、野球、サッカー、ゴルフ、テニスなどの競技で海外にて活躍する選手達の存在があります。国内外における彼らの活躍は、子ども達に強い憧れや夢と希望を与えているのは言うまでもありません。

スポーツで世界を感じよう

今後の国際情勢は、今まで以上に社会、経済、文化の面で地球規模での交流が進み、グローバル化が加速して行くことが予想できます。国際的な協調、共生さらには競争の関係が増大する時代において、子ども達が地球社会の一員として活躍する人材となるためには、その時代と活躍の舞台にふさわしい教養と専門的知識が必要となります。こうした背景から近年では、子ども達に対しスポーツを通じたグローバル化を目指す取り組みが行われるようになってきています。

例えば、国際オリンピック委員会（IOC）ロゲ会長の提案で始められた、「Youth Olympic Games（YOG）」ですが、2010 年に開催されたシンガポール大会では選手の文化・教育プログラムへの参加を義務化しています。また、東京都は、競技力向上と並んで、国を超えた相互理解を深め生涯を通じた人格形成、健全育成を果たすことを目的としたジュニアスポーツアジア交流大会を 2009 年から開催しています。

ジュニアの国際大会は、興行面からは採算性が上がらず、あまり注目されないのが現状ですが、その反面、スポーツを通じてグローバル社会で通用する人間性を高めることの重要性を若者が理解する場面として期待されています。しかし日本では、前述の YOG はテレビ放送されず（世界では 166 の国と地域で放送）、しかも他の大会を理由に参加辞退のケースがあったことは残念なことです。

スポーツを通して世界を感じられる場面として、2010 年 8 月に文部科学省より発表された「スポーツ立国戦略」では以下の 2 点にまとめられています。

1. スポーツによる国際交流は、言語や生活習慣の違いを超え、同一のルールの下で互いに競い合うことなどにより、世界の人々との相互理解を促進し、国際的な友好と親善に資する。
2. 国際競技大会などにおける日本人選手の活躍は、我々に日本人としての誇りと喜び、夢と感動を与え、国民の意識を高揚させ、社会全体の活力となると共に、国際社会において我が国の存在感を高める。

湘南から世界へ

子ども達がスポーツに取り組める環境づくりを推進する観点から、スポーツマネジメント研究所では、本学の特色である湘南ベルマーレとの提携を生かして子ども達へスポーツを普及させる取り組みを行っています。

産業能率大学 collaboration with 湘南ベルマーレ スポーツ教室

<http://smrc.mi.sanno.ac.jp/scwsblog/>

2007 年から、小・中学生を対象に「産業能率大学 collaboration with 湘南ベルマーレスポーツ教室」を実施しています。開催される教室は、サッカー、フットサル、バレーボール、ソフトボール、ビーチバレーとなっています。

湘南ベルマーレに所属するスポーツ教室の指導者は、トップアスリートのコーチですし、中には世界を舞台に活躍した経験も持ち合わせている指導者もいますので、子ども達が所属するチームでの指導とは違った角度からのアドバイスを受けることができ、好評を得ています。

SANNO ビーチバレーフェスタ

<http://smrc.mi.sanno.ac.jp/sbv/>

2009 年から、平塚地域の小学生バレーボールチームを対象に、ビーチバレーの普及を目的とした「ビーチバレーフェスタ」を行っています。スポーツの普及には 2 つの方向性が考えられ、1 つは国際レベルで活躍できるような選手の育成と、もう 1 つはレクリエーションとしての実施者も含めた競技人口の増加を図ることです。

本学に敷設されたビーチバレーコートは、海沿いにあるわけではなく、むしろ山の中腹に位置していますが、国内の現役ビーチバレー選手は、その多くがインドアのバレーボール選手から転向していることを考えると、小学生の時期からビーチバレーに触れておくことは非常に価値あることと捉えられます。

また、トップ選手によるエキシビジョンマッチや海外ツアーで活躍する選手の情報発信などを行うことで、ビーチバレーの持つ魅力を直接子ども達に伝えることが期待できます。

スポーツマネジメント研究所が行っているこれらのスポーツ普及活動は、参加プログラムの開発だけに留まることなく、スポーツ実施環境の構築や整備を検討することも今後の課題となります。

そして、スポーツによって育まれた地球社会で活躍できる人材を、この地「湘南」から、一人でも多く輩出することを目指したスポーツの普及にも貢献していくことができると思います。

*1 「Education through Sport」… 若者に対しスポーツを通じて、「友情」、「連携」そして「公正」の精神を培わせ、より良い世界を作ることを目指した教育

SANNO スポーツマネジメントのあゆみ

産業能率大学は、湘南ベルマーレ・横浜ベイスターズと提携関係を結び、情報マネジメント学部の授業科目の共同開発や研究活動を行ない、大学の行事や活動への協力など、数々の取り組みを展開してきました。本学のスポーツマネジメントの今日までの取組みについて紹介します。

| 日 | 2004年1月 | 2004年4月 | 2004年6月23日 | 2005年7月13日 | 2006年4月 | 2006年6月21日 | 2006年10月 | 2007年1月 | 2007年1月26日 | 2007年4月 | 2007年6月27日 | 2007年8月14日 | 2007年10月 | | | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| イベント | 湘南ベルマーレと提携 | 『スポーツビジネス実践講座』開講 | SANNO サックスデー | SANNO サックスデー | 『スポーツビジネスインターンシップ』開講 | 『スポーツマーケティング』開講 | SANNO スペシャルデー | サッカー強化・人材育成プロジェクト開始 | 湘南キャンパス第1・第2グラウンド改修 | 横浜ベイスターズと提携 | 本学サッカー部監督に坂下博之氏が就任 | 情報マネジメント学部にてスポーツマネジメントコースを開設 | 『スポーツ企画プロジェクト』開講 | SANNO スペシャルデー | 産業能率大学スペシャルゲーム スポーツ企画プロジェクト | スポーツマネジメント研究所設置 |
| 区画 | 2004年1月、湘南キャンパスのある伊勢原市を含む7市3町をホームタウンとする湘南ベルマーレと提携。大学では初となるJリーグチームのユニフォームスポンサーとして、2004年度から湘南ベルマーレの胸ユニフォームスポンサーとなる。 | 経営情報学部（現情報マネジメント学部）/経営学部2年次以上対象科目として、スポーツビジネスの現場で活躍する実務家が講師を務める『スポーツビジネス実践講座』を開講。 | 湘南ベルマーレのホームグラウンドである平塚競技場に本学学生、自由が丘産能短期大学生とそれぞれの卒業生、教職員、父母等関係者が集う、SANNO サックスデー（現 SANNO スペシャルデー）を開催。 対アビスパ福岡戦。試合結果：湘南 1-4 福岡 | 対モンテディオ山形戦。試合結果：湘南 2-1 山形 | 経営情報学部（現情報マネジメント学部）3・4年生対象に、湘南ベルマーレのフロント業務を体験するインターンシップ科目『スポーツビジネスインターンシップ』を開講。 | 湘南ベルマーレのホームグラウンドである平塚競技場で観客調査を実施、マーケティングやその手法を現場から学ぶ『スポーツマーケティング』を開講。 | 対柏レイソル戦。試合結果：湘南 1-2 柏 | 教育を通じた人材育成の一環として、湘南ベルマーレと本学とが共同で取り組む『サッカー強化・人材育成プロジェクト』を開始。湘南ベルマーレユースチーム（U-18）の選手の受け入れ、プロ仕様・公式戦に耐えうるグラウンドの整備、湘南ベルマーレスポーツクラブのコーチをサッカー部に派遣し、本学サッカー部の育成とチーム強化を行う。 | 1996年に竣工した第1・第2グラウンドの改修工事を施工、人工芝グラウンドが完成。 本学サッカー部と湘南ベルマーレユースチーム、トップチームが共同で利用。 | スポーツビジネスをマネジメントできる人材の育成を共に進めるため、共同授業の開発などを柱とした業務提携を行う。 | 湘南ベルマーレの前身であるフジタ工業サッカー部の選手として活躍し、日本サッカー協会公認・S級ライセンスを所有する坂下博之氏が、本学サッカー部監督に就任。 | 実社会に即した人材育成を行ってきた本学が新しい時代的要素に合わせるため、2007年度より、経営情報学部を情報マネジメント学部に名称変更。新たに、スポーツマネジメントを体系的に学ぶ『スポーツマネジメントコース』を開設。 | 横浜ベイスターズのファームチーム「湘南シーレックス」における公式戦を教材に、教室で得た知識を実践の場で体験し、球団経営や公式戦運営を学生が体験する『スポーツ企画プロジェクト』を開講。 | 対京都市FC戦。試合結果：湘南 2-4 京都 | 授業科目「スポーツ企画プロジェクト」の履修学生が、湘南シーレックス VS 北海道日本ハムファイターズ戦において、試合イベントの企画・運営を担当。 2007年は「シーレックス応援祭り」をテーマに、両チームの物産品を販売、ヒーローインタビューや大始球式等を開講。 | 湘南ベルマーレや横浜ベイスターズと提携し、スポーツマネジメント分野における教育・研究活動に取り組んで来た本学の、これまでの活動の体系化と実践に向けた応用研究への発展を図ることを目的に「スポーツマネジメント研究所」を設置。 これから発展の見込まれる分野としてバスケットボール・ビーチバレーを研究テーマの一つとして取り上げること、またビーチバレー部発足、強化に取り込むことを発表。 |



| 日 | 2007年10月 | 2007年12月16日 | 2008年1月 | 2008年4月7日 | 2008年5月 | 2008年6月25日 | 2008年8月30日 | 2008年11月20日 | 2009年6月21日 | 2009年8月18日 | 2009年11月14日 | 2009年12月5日 | 2010年5月16日 | 2010年10月16日 | 2011年5月29日 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| イベント | 女子ビーチバレー部発足 川合庶氏がヘッドコーチ就任 | ビーチバレーコート竣工 | 湘南ベルマーレ・沖縄キャンプにてキャリア支援 | ビーチバレーコート開設 記念式典開催 | SANNO スポーツクラブ collaboration with 湘南ベルマーレ スタート | SANNO スペシャルデー | 産業能率大学スペシャルゲーム スポーツ企画プロジェクト | 東京アパッチ 産業能率大学スペシャルゲーム | SANNO スペシャルデー | 産業能率大学スペシャルゲーム スポーツ企画プロジェクト | ビーチバレーフェスタ 2009 開催 | 湘南ベルマーレ J1 昇格 | SANNO スペシャルデー | ビーチバレーフェスタ 2010 開催 | 産業能率大学スペシャルデー |
| 区画 | 本学に新たに女子ビーチバレー部が発足。日本バレーボール協会ビーチバレー強化委員であり、スポーツマネジメント研究所客員研究員である川合庶氏がヘッドコーチに就任。 | 2面あるコートは、公式戦の開催も可能。300名収容の観客席やナイター設備を完備。本学女子ビーチバレー部が主に使用。 トッププロ選手の練習場としての活用も期待され、2008年7月には北京五輪日本代表選手が直前練習に使用。 | スポーツマネジメント研究所研究員 長岡健教授が湘南ベルマーレトップチーム沖縄キャンプにて、選手・コーチ陣を対象とするセカンドキャリア支援に関するワークショップを実施。 | 日本ビーチバレー連盟の川合俊一会長、特別ゲストとして女子ビーチバレーワールドランキングで日本1・2位のベア（橋原千秋・佐伯美香ペア / 田中姿子・小泉栄子ペア）が来校。 | 湘南ベルマーレスポーツクラブのスタッフと本学の施設を利用したスポーツ教室がスタート。 フットサル、ビーチバレー、健康づくりといったプログラムを月1度湘南キャンパスにて実施。 | 対モンテディオ山形戦。試合結果：湘南 1-1 山形 | 湘南シーレックス VS 北海道日本ハムファイターズ戦において、「史上最大のスイカ祭り！」をテーマに、試合イベントの企画・運営を担当。 | スポーツマネジメント研究所でマーケティング調査を実施する等、本学と協力関係にあるプロバスケットボール「Jリーグ」東京アパッチの公式戦を、本学の学生と教職員が観戦するイベント「東京アパッチ 産業能率大学スペシャルゲーム」を開催。 対大阪エヴェッサ戦。試合結果：東京アパッチ 91-90 大阪エヴェッサ | 対コンサドーレ札幌戦。試合結果：湘南 3-2 札幌。 | 対西武ライオンズ戦において、「なつやすみのおもいで」をテーマに、学生がイベントを企画立案。 選手への記者体験やレックダuns教室等、子どもたちを中心とする各種イベントを開催。 | 「ビーチバレーをもっと身近なスポーツに！」をテーマに、学生実行委員会が主催となって開催するビーチバレーフェスタ。本学ビーチバレーコート会場に、地域の小学生を招きました。 プロビーチバレー選手の周藤玲美選手と山田寿子選手を招いたエキシビジョンマッチ、小学生チーム対抗のビーチバレー大会や、選手からの直接指導の時間など、ビーチバレー色のイベントを開催。 | 2009シーズン最終節 対水戸ホーリーホック戦にて3-2で水戸に勝利！11年ぶりにJ1への昇格を決めた。 | 対ガンバ大阪戦。試合結果：湘南 1-3 大阪 | エキシビジョンマッチでは、山田寿子選手と松山結子選手が来校。地域の小学生約100名と、ビーチバレー大会、スペシャルマッチなど、ビーチバレーを楽しむイベントを実施。 | 対ザスパ草津戦。試合結果：湘南 2-0 草津 |



05

エクリチュールとしての サッカーノート

—考える力を醸成する脱 MECE 型ライティングのすすめ—

法政大学 経営学部 教授 長岡 健
(2011年3月までスポーツマネジメント研究所研究員)

「スポーツ分野にマネジメントを適用する」という理念のもと、産業能率大学スポーツマネジメント研究所は「考えるサッカー選手の育成支援」に取り組んできました。その際、私が強く意識してきたのは、ビジネス分野における人材育成研究の知見をいち早く取り込み、スポーツ人材育成に役立てることです。

2009年度の活動では、近年のビジネスで注目を集める「対話的な学び」を積極的に導入したワークショップを実施し、「指導=教える」という古い教育観をスポーツ人材育成から払拭することにチャレンジしてきました。そして現在、ワークショップに参加してきた若い選手たちの中に、「マジメで楽しい対話的学び」のスタイルが徐々に浸透しています。

では、次にチャレンジすべきことは何でしょうか。私が選んだテーマは「エクリチュール (=書くということ)」です。哲学者デリダが用いたこの概念が、スポーツ人材育成とどう関係しているのでしょうか。「サッカーノート」を書く意味についての考察を通じて、考えてみたいと思います。

サッカーノートへの注目の陰に

2010年、FIFAワールドカップ日本代表の本田圭佑選手が長年つけてきた「サッカーノート」のニュースが、南アフリカ大会での彼の活躍とともに、多くのサッカー関係者に知れ渡りました。そして、選手として成長するためにサッカーノートが効果的であるという言説が広まり、現在ウェブを検索すれば、「サッカーノートの書き方」といった多くの情報を見いだすことができます。

もちろん、サッカーノートに対する意識が高まるのは非常に好ましいことです。でも、ウェブ上に見られる情報の中に、選手の役に立つと思われるものはあまりありません。例えば、「サッカーノ

トの書き方」について見てみると、「体調、練習内容について客観的に記録する」ということを挙げているだけのサイトがほとんどです。これは明らかに「内容」であり、「書き方」ではありません。また、「客観的に記録する」ことがどのような意味で重要かについて言及しているサイトを、私は目にしたことがありません。その意義に関しては、多くの場合、「サッカーノートを書くことは、練習するのと同様に重要である」ということしか述べられていません。

おそらく、この状況は「サッカーノートを書くことは難しい行為ではない」という認識を反映しています。確かに、「体調、練習内容についての客観的記録」がサッカーノートならば、さほど難しいことではないでしょう。でも、単なる「客観的な記録」が「練習するのと同様に重要」というのは、どうにも腑に落ちません。「サッカーノートを書くことは、練習するのと同様に重要」ならば、その真の意義はどこにあるのでしょうか。

「書く」ことは「思考する」こと

「考えるサッカー選手の育成」という視点にたてば、サッカーノートの意義が考える力を醸成することにあると行うことができます。そして、この見方の背景には、ポスト構造主義哲学者のジャック・デリダ¹⁾が用いた「エクリチュール」という概念があります。専門家からの批判を恐れず、大胆にもこの概念を一言で言ってしまうと、「書くことは思考すること」という考え方です。

通常、「書く」という行為において、「テキスト化する内容は、すでに明確になっている」ことが前提とされます。つまり、書き手の頭の中にすでに存在するコンテンツを、テキストという別のモードに変換する作業が「書く」ことだと理解されています。例えて言うなら、下書きされた原稿をタイプライターで清書するようなものだ

ということです。

それに対して、「エクリチュール」とは、文章化というプロセスの中で、初めてコンテンツが明確化されることを意味します。「書くべき内容は何か」ということは、それがテキストとして表現されて初めて、書き手にとっても明示的になり、事前に「分かっている」わけではないということです。つまり、「書く」という行為と「思考する」という行為が渾然一体となり、その結果がテキストとして表現される創造的営みが「エクリチュール」という行為です。

以上の違いを踏まえると、「サッカーノートを書く」という行為を、「タイプライター型」と「エクリチュール型」という2種類に分類することができます。「タイプライター型サッカーノート」とは、「どこが重要なポイントか」「記録された内容が何を意味するのか」といったことが事前に明確であることを前提とした、記録作業を意味します。一方、「エクリチュール型サッカーノート」とは、「今日の試合を振り返ると、この辺りのことが気になるなあ」と感じているものの、重要なポイントの所在やその意味について事前に認識しているわけではなく、サッカーノートを書く行為を通じて、それらを徐々に明確化していく思考のプロセスを意味します。

さて、ここで「サッカーノートを書くことは、練習するのと同様に重要」という言説を、もう一度議論の俎上にのせてみましょう。もしそれが本当ならば、サッカーノートの本質的な意義は、「エクリチュール」という行為にこそ見いだせるのではないのでしょうか。そして、「考えるサッカー選手」を育成するためには、「エクリチュール型サッカーノート」の作成を通じて、「明確に意識化できていないことを書く」という行為の意味と意義に対する理解を深める支援を行うと同時に、それを体験的に学習する機会を用意することが求められるはずだ。

「モレなくダブリなく」の弊害

ただし、「エクリチュール型サッカーノート」を作成するのは決して簡単なことではありません。何故ならば、それは私たちの被教育体験の中にある「ノート・テーキング」とは全く異なるものだからです。

学校的場面において、「ノート・テーキング」といえば、「教員が黒板に書いた板書内容を書き写すこと」をイメージする場面がほとんどです。これは明らかに「タイプライター型」の機械的作業であり、「自分の考えをまとめる」「講義を聞いての気づきを書き留める」といった創造的な行為は含まれていません。そのため、サッカー選手だけでなく、私たちのほとんどが「エクリチュール型」の記述に不慣れで、いざチャレンジしようとしても、どうしていいかわからず途方に暮れてしまうものです。

では、この難問をどうすれば克服できるのでしょうか。この点について、社会学者ゴフマンが興味深い指摘をしています。

「私たちは、奇妙なトレーニングを受けてきたせいで、無駄も隙もない文章、つまりヘミングウェイ調の無駄も隙もない散文でできた文章を書こうとする傾向にあります。これをしたら最悪です。……「私はこう感じた」と書く場合には、その作業に精力を傾けているかぎり、できるだけ饒舌に、できるだけだらだらと書きなさい。……饒舌で副詞に満ちたその散文がいかにもだらだらしたものであろうと、それは依然として、少数の言葉で書かれた「分別ある文章」に凝縮された資料よりも、より豊かな母資料なのです」²⁾

ゴフマンが指摘しているのは、「無駄がなく、簡潔な文章」に固執することの弊害です。今日のビジネスにおいて、「モレなくダブリなく (MECE: Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive)」、つまり簡潔で論理的である文章を書くべきという考え方は当然のことと認識されています。このような認識の広がりには、「ロジカルシンキング」が重要なビジネス・スキルとして盛んに取り上げられ、書店には「論理的思考」についての実用書が氾濫していることから知ることもできます。

ただし、MECEとは「タイプライター型」を前提とした文章化作法である点に注意すべきです。サッカーノートが「エクリチュール」を意図したもので、出来上がったノートが「無駄なく、簡潔な文章」であることより、記述プロセスの中で「考えること」を重視する以上、いわゆるMECE型の文章作法は不要だけでなく、本来的な目的にとって妨げともなってしまいます。この点を踏まえると、「MECE型文章作法」を一旦脇に置いて、「できるだけ饒舌に、できるだけだらだらと書く」といったスタイルに慣れることがエクリチュールに取り組む第一歩だと言えるでしょう。

サッカーノート作成を通じた「考える力」の醸成

以上の点を踏まえた上で、2010年度のワークショップでは、「サッカーノートの作成を通じた、考える力の醸成」に取り組んできました。ワークショップの開始当初は、「エクリチュール型サッカーノート」に戸惑いをみせた選手たちも少なくありませんでしたが、合計12回のワークショップを修了する頃には、テキスト化というプロセスの中での省察的学習の実践について、多くの選手たちの成長する姿を見ることができました。

ワークショップの中で、「機械的に事実を書くのではなく、自分が経験したことを整理した上で、自分にとっての気づきを記述する」という一連の流れを繰り返し経験してきた若い選手たちには、徐々にではありますが、「経験の省察から学ぶ姿勢」が芽生えつつあるように感じています。そして、その成果が必ずや発揮されるであろう秋のリーグ戦を、今からとても楽しみにしています。学び、成長し続ける若い選手たちの健闘を祈りつつ、私も先に進んでいきたいと思えます。



1) Derrida, J. (1974) *Of Grammatology*, Johns Hopkins University Press.
2) ゴフマン, E. (2000) 「フィールドワークについて」(申田秀也・訳、好井裕明・桜井厚・編「フィールドワークの経験」, セリカ書房, pp16-26.

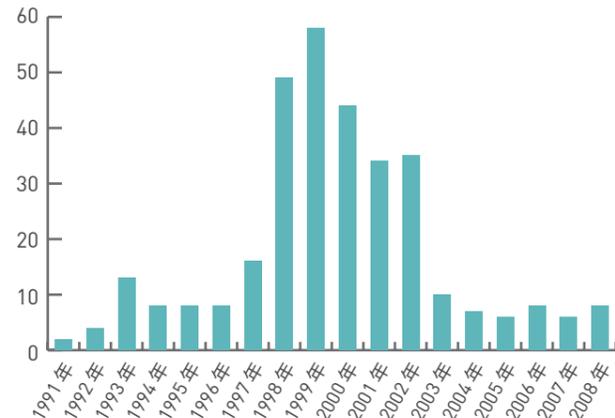
日本のプロ・スポーツが抱える課題 — bjリーグを中心として —

情報マネジメント学部 准教授 **木村 剛**

転換期にある我が国のプロ・スポーツ

日本のプロ・スポーツは今大きな転換期を迎えている。バブル崩壊、リーマンショック以降、多くのプロ・スポーツで撤退、廃部、縮小が相次いだ。こうした傾向は、今回の東日本大震災によってさらに強まっていくことが懸念される。もちろん景気後退が主要因であるが、プロ・スポーツが縮小している最大の理由は、親会社に依存した、いわゆる企業スポーツが日本におけるプロ・スポーツのメインストリームだったからに他ならない。プロ野球をはじめ、サッカー、バレーボールなど我が国のプロ・スポーツの多くはスポンサーの安定的なサポートによって成立しているところが多い。それゆえスポンサーの経営が悪化すると、廃部、撤退が多くなる。特に、マイナースポーツを支えてきた企業にこうした傾向が強くなり、オリンピックでメダルを獲得したソフトボールですら厳しい状況に置かれている。日本がスポーツにおいて、今後も一定の成果を目指すのであれば、国レベルでの振興策や強化を含めた早急な対策が必要となる。

企業スポーツの休廃部数の推移



出所：株式会社デザイン研究所調べを筆者がグラフ化



こうした厳しい状況下で、多くのプロ・スポーツ（リーグ）が懸命に取り組んでいるのが、大手スポンサーによる経営からの脱却と地域密着の強化による財務体質の強化である。プロスポーツビジネスにおいて、地域密着型のビジネス展開は決して新しい考えではない。例えば、アメリカのメジャーリーグ、ヨーロッパのサッカークラブなどは、その名称の中に地域名を入れ、その地域にいる人々は地元チームを熱狂的に応援するという構図が定着している。日本でも以前から地域密着は謳われてきたものの、プロ野球（NPB）に象徴されるように企業スポーツとしての色合いが濃く、それに慣れた日本では、地域やそこに住む個人でチームをサポートしていくという意識は乏しかった。しかしそのプロ野球も、近年は日本ハムの北海道移転や楽天の仙台移転など、より地域にこだわった運営が志向される傾向が強まっている。また、Jリーグは1993年の発足当初から「Jリーグ百年構想～スポーツで、もっと、幸せな国へ～」というスローガンを掲げ、「地域に根差したスポーツクラブ」を核としたスポーツ文化の振興活動に取り組んできた。こうした地域に根差したスポーツチームづくりは世界的にも幅広く採用されており、プロスポーツチームは地域経済とも密接に関わる存在となっている。

そこで今回は、日本における地域密着型経営の現状を踏まえ、bjリーグを中心として、今後の企業スポーツのあり方について検討してみたい。

地域密着型の成功例

日本でも、地域密着型の成功例は存在する。Jリーグのアルビレックス新潟である。現在、アルビレックス新潟の観客動員はJリーグでもトップクラスにある。ホームゲームの一試合平均動員数は約30,000人（2010年度）を誇り、この数値はJ1平均18,000人を大幅に上回っている。それまでは不毛の地とすら言われるほどのレベルであった新潟という地にサッカーが根づいたのは、2002年日韓共同開催のワールドカップがきっかけであった。新潟はワー

ルドカップの熱をうまく持続させることに成功したのである。

池田宏アルビレックス新潟代表取締役会長は次のように語っている¹⁾。

「地域密着型のチームを成功させるためには、ヨーロッパと同じように地域住民から広く薄く支援して頂かなければならないことに気づきました」ヨーロッパのクラブチームのように、地域住民が家族ぐるみで、サポーターとしてクラブを支援する。これはJリーグが理想とする地域密着型のチームづくりでもある。「地域に1万組ぐらいのファミリーサポーターをつくる。そうすれば、スタジアムを満員にできるなと考えたのです」（同池田氏）

こうした考えの下、新潟県のほぼ全域で地区後援会が組織された結果、サポーターの数は2010年3月²⁾現在、個人会員9,556人、法人会員1,074社を数えるまでに増えていった。

「W杯ではベッカムも来ました。でも一番刺激的だったのは、アイルランドのサポーターでした。あれだけ楽しんで応援するというスタイルは、新潟の人たちにも大きな影響を及ぼしたと考えています」

本場のサッカーの楽しみ方を新潟の人たちも経験したのであった。地域密着型を前面に掲げて成長してきたアルビレックス新潟の事例はJリーグの中だけでなく、他のプロ・スポーツからみても参考になるケースであるといえる。

高松ファイブアローズの 地域密着経営への挑戦

bjリーグにおいて、現在、地域密着型経営への転換に懸命に取り組んでいるチームが高松ファイブアローズである。2010-11シーズン、高松はメインスポンサーの穴吹工務店の経営破綻を受け、突如チーム運営の危機に陥った。当初参加不可能と言われていたが、四国でのバスケの火を消さないために、地元の企業10数社が名乗りを上げ、ようやく参加にこぎつけた。このようにメインスポンサー企業の破綻によって、突然チーム運営が窮地に陥るのはそれだけ、メインスポンサーへの依存度が高いことを意味している。だが、我が国において、その数は決して少なくない。

このチームの再建を託されたのが、前中小企業庁の課長補佐を勤めていた星島郁洋氏である³⁾。なぜ、官僚であった星島氏が、bjリーグの経営を引き受けたのかについては、非常に興味深い。これについてはテレビでも新聞でも多くのメディアで報道されているのでそちらを参照されたい。星島氏が社長に就任した当時、高松の負債は約5000万円であった。チームを運営しながら、負債を返済するために星島社長が積極的に取り組んだのが、前述のアルビレックス新潟のように地域密着型で広く浅く支援を募ることであった。結果として、星島社長が就任した時には1社しかなかったスポンサーは、2011年4月現在、ブースター法人会員などを含めると100社を超えるまでになった。負債はまだ増え続けているが、少しずつ復活への足がかりは見えてきた。2期連続で最下位となってしまったが、資金繰りがうまく回ってくることで、運営は安定し、次第に強いチームづくりが可能となる。今回の高松ファイブアローズの苦悩は、そのまま他のプロスポーツチームの課題としても当てはまる。もし高松が復活出来れば、今後、他のスポーツでも参考となるモデルケースとなりうる。



地域密着かスポンサー重視か

現在の環境を見る限り、とりわけbjリーグのような新興のプロ・スポーツが、メインスポンサー型から脱却し地域密着型経営を志向するのは正しい選択であるといえる。従来は明らかに企業スポンサーの比重が高く、このバランスを是正することは経営の安定化の面からも不可欠である。しかしながら、地域密着だけでは限界があることもまた事実である。当面は地域密着型の充実を図りながら、企業スポンサーの維持拡大を図るハイブリッド型の経営が望ましい。バランスの是正は重要であるが、企業スポンサーが入っていることのメリットも大きい。その意味で、企業がスポーツをサポートする新たな仕組みづくりが求められている。

bjリーグを取り巻く環境は大きく変化している。まず2011年3月に起こった東日本大震災が、リーグ運営そのものを危うくする可能性がある。現に中心被災地である仙台89ersは、今季関東カンファレンスで上位に位置しながらも、震災から1週間もしないうちにコーチ、選手を全て解雇し、今シーズンの参加を取りやめた。この他、東京アパッチ、埼玉ブロンコスなども震災直後、早々に今シーズンの参加を取り止めており、財務基盤の脆弱性に起因するこうした動きが活発化すると、bjリーグの存続そのものが危うくなりかねない。次に、まだ具体的な計画は示されていないが、JBLとの統合を目的としたトップリーグの設立が決定している。トップリーグが出来たとき、bjリーグからどのチームが参入するのか、また、その後のbjリーグはどうなるのかはまだ不透明である。

他方で、新規参入を希望するチームが多いのも事実である。今シーズンは島根サノオマジック、秋田ノーザンハピネッツ、宮崎シャイニングサンズの3チームが新規参入し、来シーズンは信越プレイングフォリアーズ、千葉ジェッツ、岩手ビックブルズ、横浜ビーコルセアーズの4チームの参入が決定している。こうした状況下でも新規参入が多い理由は、何よりも他のプロ・スポーツよりも、年間の運営費が比較的安いという点や、既存の体育館等の有効活用を図り、地域活性化の一助にしたいといった行政側の理由がある。bjリーグはまだ孵化期にある。今後安定したリーグ運営を目指すうえで、こうした試練は超えていかなければならない。本研究では、こうした微妙なバランスの中で、bjリーグはどのような方向に向かっていくのかについて、さらに調査を進めていきたいと考えている。

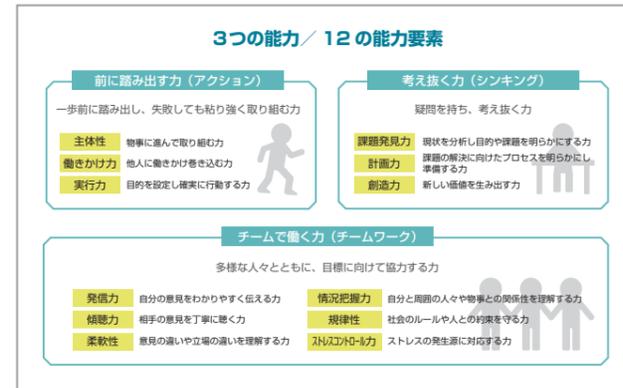
1) 池田会長には2009年12月インタビューにご協力頂いた。ここで感謝の意を表したい。
2) アルビレックス新潟公式HP(<http://www.albirex.co.jp/>) 2011年3月調べ。
3) 星島社長には2011年3月にインタビューにご協力頂いた。ここで感謝の意を表したい。

本学が株式会社湘南ベルマーレと協働で実施している「産業能率大学 collaboration with 湘南ベルマーレスポーツ教室（以下、スポーツ教室と略する）」において、本学学生がその運営に参加することで、経済産業省や本学の育成する人材像で表現されている「社会人基礎力」への気付きやマネジメント能力の高まりの獲得が期待される。そこで、前述のスポーツ教室運営に参加した学生を対象に、「社会人基礎力」および「マネジメント能力」に関する聞き取り調査を行い、それらの気付きや高まりの検証を行った。

大学教育において育成すべき資質・能力

経済産業省は2006年2月に、我が国経済を担う産業人材の確保・育成の観点から、将来の日本を支えるべき若者が社会の変化に対応でき、職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力を、3つの能力と12要素からなる「社会人基礎力」として提唱している。社会人基礎力は、「前に踏み出す力(アクション)」、「考え抜く力(シンキング)」および「チームで働く力(チームワーク)」の3つの能力を抽出し、各能力に、主体性・働きかけ力・実行力、課題発見力・計画力・創造力、および発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力を要素として取り入れている(資料1)。

資料1. 社会人基礎力とは(経済産業省 2007)



07 スポーツ教室の運営補助を通じて培われる社会人基礎力

情報マネジメント学部 教授 **渡邊 隆嗣** / 情報マネジメント学部 准教授 **中川 直樹**

わが国の大学におけるスポーツマネジメント教育の現状

スポーツマネジメントとは、「スポーツ活動そのものを生み出すスポーツ組織におけるマネジメント」として解釈されている(松岡2010)。ここでいう「スポーツ活動そのもの」とはするスポーツとみるスポーツを、また、「スポーツ組織」とは生産と提供にかかわるビジネスを行う組織を指している。

わが国の大学においてもスポーツマネジメントの人材養成が行われている。履修科目には、「スポーツマネジメント」をはじめとし、「スポーツマーケティング」や「スポーツ施設・イベントのマネジメント」などがある。しかしその一方で、スポーツマネジメント教育は理論と実践のバランスを取ることが重要とされながらも、インターンシップやボランティア、あるいは近隣のスポーツ組織を活用したPBL(Project Based Learning)を十分にできない課題も抱えている大学も存在する(松岡2008)。

本学授業科目「スポーツマネジメントの実践」

本学は、2004年から株式会社湘南ベルマーレと提携関係を結び、スポーツマネジメントに関する情報マネジメント学部の授業科目の共同開発、大学の行事や学生の課外活動への協力など、数々の実践的な取り組みを展開している。

さらに2008年には、伊勢原周辺地域の在住者を対象に、スポーツ教室を開催した。そして、2009年度からはスポーツ教室の場を活用し、スポーツマネジメントに関連する講義で学び得た知識や情報を実際のスポーツイベントの場で活用し、学習内容の確認や新たな発見をすると共に、マネジメント技法の応用確認を目的とした授業科目である「スポーツマネジメントの実践」が開講された。

この授業を履修した学生は、月に1回開催されるスポーツ教室の運営補助として現場スタッフと協力して活動を行う。そして、スポーツ教室実施後には、学生が経時的にスポーツ教室の内容を振り返る「振り返りシート」を用い、問題点の抽出や改善案を検討し、次回の実習へとつなげていく授業形式を取っている。履修学生は、スポーツ教室の体験を通じた様々な気づきから成長する姿を見せる。しかし、本授業で教員および学生が感じるその成長は、主観的あるいは抽象的な評価であり、客観的あるいは定量的・定性的な評価を行うには至っていない。

そこで本研究では、本学が育成する人材像に掲げている、マネジメント実践力を兼ね備えた人材といった観点を鑑み、さらには経済産業省のまとめた「今日から始める社会人基礎力の育成と評価」において、PBLによる評価方法が提唱されている「社会人基礎力」を評価項目として、本授業における各活動に対するねらいの学生達成度評価を試みた。

社会人基礎力の評価

2010年度の「スポーツマネジメントの実践」の履修学生は、6名(男子学生4名、女子学生2名、全員3年生)であった。学生のスポーツ教室運営補助への参加は、全部で6回(初回は見学、毎回の教室参加者および種目は異なる)であった。毎回のスポーツ教室終了後に、学生には翌週の授業までに「スポーツ教室体験報告書」の提出を義務付けた。

また、6回に亘るスポーツ教室の終了後には、学生に運営補助者としてスポーツ教室に参加して学べたと思える点を、「事前ミーティング」、「会場準備・片付け」、「参加者対応」、「スポーツ教室補助」、「情報収集・発信」、「振り返りシート」および「その他」の観点から「スポーツ教室振り返りシート」に記述させた。そして、記入用紙回収後に教員がその記述内容を読み込み、教員が設定した各活動に対

するねらい(その活動を通じて学生に発揮することを期待する能力)について、「発揮できた」、「何とか発揮できた」、および「発揮できなかった」の3段階で評価した(表1)。

評価表から読み取れる内容として、第一に、事前に打ち合わせられ、自分に課せられた仕事に関しては、学生は計画的に実行できたと感じている点である。したがって、事前ミーティングの有用性を学生達は認識していると考えられる。第二に、事前の打ち合わせになかった想定外の場面に接した際に、学生は状況を把握し臨機応変に行動できなかったと感じている点があげられる。事前ミーティングで触れられなかった場面も想定しておくこと、さらには施設、備品、運営組織等の情報を広く得ておくことの大切さを実感していると考えられる。第三に、スポーツ教室の参加者・指導者への対応が思うようにできなかったと感じていることが確認できた。評価表を見ると、学生個人に対する仕事の達成度は比較的良好であるのに対し、第三者への対応に関する仕事となると、十分に力を発揮できていないと判断していると読み取れる。第四に、振り返りシートを活用し、学生の学びをまとめる、あるいはスポーツ教室運営上の課題を発見し改善につなげることができなかったと感じていることがみられた。課題を認識し、その存在を文章化するなどして情報発信する。そして周囲を巻き込み課題解決へのプロセスを進める、いわゆるPDCAサイクルを進める実践力が定着していないことが考えられる。

表1. スポーツ教室の運営補助を通じて培われる社会人基礎力の評価

| 活動内容 | 活動のねらい | 社会人基礎力 | | 学生の評価 | | | 学生のコメント |
|------------|---------------------------------------------------|-------------|-------|-------|---|---|------------------------------------------------------------|
| | | 主体性 | 実行力 | ○ | △ | × | |
| 事前ミーティング | 各自が当日の流れを把握し、役割を知ることによってイベント実施に向けて主体的に活動できるようにする。 | 主体性 | 実行力 | | ○ | | 事前ミーティングを行うことで、作業内容や当日の流れが確認できてスムーズに動けた。学生からもっと意見が出ると良かった。 |
| | 各自がイベントの内容全体を理解することで、担当間の連携を強化し、円滑な運営を行えるようにする。 | 計画力 | 状況把握力 | | ○ | | 自分では気がつかない参加者のことや細部について検討できた。 |
| | 各自の作業内容を確認することで、事前準備の進行状況も確認できるようにする。 | 課題発見力 | 創造力 | | ○ | | 事前準備で不足している点が確認できた。前回の反省を活かして次回の改善点について話しあうことができた。 |
| | 会場準備を通じてスポーツ教室が効率良く、効果的に実施できるようにする。 | 実行力 | 計画力 | | ○ | | 当日にマットが汚れていたり、ベンが書けなかったりした。用具や備品の準備は、使う人の視点で行うことが大切だった。 |
| 会場準備 | 受付の役割を考え、その機能を果たせるようにする。 | 実行力 | 計画力 | | ○ | | 受付は開始時間近くになると混雑したが、レイアウト次第で人の流れを整理することができた。 |
| | テント設置の作業手順の理解と相互協力が円滑にできるようにする。 | 計画力 | 働きかけ力 | | ○ | | テント設置は、初めは組み立て方が分からなかったが、次第に理解でき協調性も生まれた。 |
| | テント設置等により、スポーツ教室参加者の利便性・快適性を配慮できるようにする。 | ストレスコントロール力 | 創造力 | | ○ | | 夏場の水撒きや氷の準備、保護者へのお茶の提供などは自分達では考えつかなかった。 |
| | 案内板や横断幕・フラッグ等の設置により、会場の雰囲気高められるようにする。 | 実行力 | 創造力 | | ○ | | 横断幕やフラッグの設置で会場の雰囲気が変わった。もう少し案内板があっても良かった。 |
| 参加者対応 | 工具・用具や備品の正しい使い方を知り、効率的に作業が進められるようにする。 | 実行力 | 規律性 | | ○ | | 紐の結び方を何度も注意された。 |
| | 小学生から保護者あるいは指導者まで、臨機応変な幅広い対応ができるようにする。 | 柔軟性 | 規律性 | | ○ | | 状況に応じて失礼のない言葉遣いや気遣いが必要だと感じた。自分の考えているような十分なサービスができなかった。 |
| スポーツ教室指導補助 | 参加者とのコミュニケーションから、新たな課題の発見やアイデアを創造する。 | 傾聴力 | 課題発見力 | | ○ | | こちらが必要とする情報を集めることは大変だった。 |
| | 自らが補助することで、円滑な指導やイベントの運営が行えるようにする。 | 状況把握力 | 実行力 | | ○ | | ボールを拾うなどの最低限のことしかできなかったため、指導者との打ち合わせも大切だと感じた。 |
| 情報収集 | 情報発信を意識して写真撮影、アンケート調査を行い、有効な情報収集が行えるようにする。 | 実行力 | 傾聴力 | | ○ | | アンケートは様々な情報が得られるので有効だと思うが、リピーターに対する配慮も必要だと感じた。 |
| | 参加者の安全性に配慮しながら、作業手順の理解と相互協力のもと円滑に撤収作業が進められるようにする。 | 実行力 | 状況把握力 | | ○ | | 片付け作業は準備作業の逆の手順だったため早く進められた。 |
| 情報発信 | 収集した情報を、読者を意識して効果的に発信できるようにする。 | 発信力 | 創造力 | | ○ | | 学生が備品等の保管場所を把握していればもっとスムーズに対応できたと感じた。 |
| | 各自の活動を振り返り、実践による学びや確認事項を記録できるようにする。 | 課題発見力 | 創造力 | | ○ | | ブログにて教室の様子を文章で的確に伝えるのは難しかった。 |
| 振り返りシート | 各自の活動を振り返り、実践による学びや確認事項を記録できるようにする。 | 課題発見力 | 創造力 | | ○ | | 時系列で振り返るのはやりやすかったが、シートにうまくまとめられなかった。 |
| | 問題点や課題等を抽出し、次回までに検討できるようにする。 | 課題発見力 | 計画力 | | ○ | | 提出期限に間に合わずに、提出するだけで終わってしまったのが残念だった。 |

学生の評価: ○・・・発揮できた / △・・・なんとかできた / ×・・・発揮できなかった

今後に向けて

大学教育に対し、実践型の教育あるいは双方向性授業の展開等が求められている今日、社会人基礎力という概念を活用した実践型学習は、知識教育⇒知識の活用⇒実践教育⇒学ぶ意欲といった理論と実践の融合による成長の好循環を生み出すことが期待され、取り組むべき1つの方法であると考えられる。本研究において、社会人基礎力に基づき実際に授業評価を試みたところ、学生と教員間で授業における到達目標や到達度の共有を行える方法であることが確認できた。今回は、第一段階としての検証を行ったが、今後は学生の育ちのポートフォリオの一環として、事前、中間および事後評価の実施や評価の学生へのフィードバックなど、活用方法の検討が必要となろう。

参考文献
 1. 経済産業省 「社会人基礎力」育成のススメ ～社会人基礎力育成プログラムの普及を目指して～ 2007年5月
 2. 経済産業省 今日から始める社会人基礎力の育成と評価 2009年6月
 3. 松岡宏高(2010) スポーツマネジメントの概念の再検討 スポーツマネジメント研究 2(1): 33-45
 4. 松岡宏高 日本の大学におけるスポーツマネジメント教育の現状と課題 びわこ成蹊スポーツ大学紀要 5: 71-76 (2008)

ビーチバレーの普及に向けた「調査」と「現場」との連携 2

情報マネジメント学部 准教授 **小野田 哲弥**
川合 庶

日本バレーボール協会 ビーチバレー強化委員会 副委員長
 湘南ベルマーレ ビーチバレーチーム セネラルマネージャー / 産業能率大学 女子ビーチバレー部 ヘッドコーチ

本研究所では、「現場」においてビーチバレーの普及活動を先導してきた川合庶と、インターネットを利用した「調査」を専門にする小野田とが異色のコラボレーションを行っている。前号では一般男女1万人に対してインターネット調査を実施し、バレーボールとビーチバレーとのイメージ比較や、親子間のスポーツキャリアパス解析などを行った。本号では、前回調査の1年後に実施した同様の調査結果を前回調査と比較するとともに、2010年度より新たにスタートさせた研究についても報告する。本文の執筆は、データ周りを小野田が、結果の解釈を川合が主に担当した。

前回調査との比較

表1は、前号と同様の25対の対立概念を提示し、バレーボールとビーチバレーそれぞれについてイメージを尋ねた調査結果の比較である。それぞれの年度において「+2：かなりプラス側」「+1：ややプラス側」「-1：ややマイナス側」「-2：かなりマイナス側」として平均を算出し、その値を年度間で比較するt検定を行った。平均値は絶対値0.250ごとに階層区分を行い、プラス側ほど暖色系、マイナス側ほど寒色系で網掛けをしている。なお有意性の列は、両側確率で「1%有意」の場合に「**」、「5%有意」の場合に「*」と記した。

世界バレーの影響が大きかったバレーボール

2010年度のバレーボールを語る上で欠くことができないのは、世界バレー（バレーボール世界選手権：FIVB Volleyball World Championship）における、全日本女子（女子日本代表）の32年ぶりとなる銅メダル獲得（2010年11月14日）である。2010年度の調査は2011年に入ってから実施したため、この快挙の影響が如実に現れる結果となった。

各種目に対するイメージは、男子種目・女子種目に分けて尋ねたものではないが、1%有意で最も大きな変化が見られたイメージが「華やかな」であり、「なじみのある」「美しい」「楽しい」「集団的」「興奮する」などの各イメージも5%有意で強化された点を踏まえれば、その変化は、世界バレーにおいて全日本女子が一致団結して強豪国を打ち破り、試合のテレビ中継も連日高視聴率を記録したことに基づくと説明してよいであろう。

歴史が長いイメージが安定している感のあるバレーボールであっても、このような大きな変化が起こりうる。この事実は、活躍し結果を残すことがスポーツにとっていかに重要であるかを改めて教えてくれる。

競技認知がより浸透したビーチバレー

インドアのバレーボールは世界的に華々しい成績を残したが、国内において競技としてのイメージ変化がより大きかったのはビーチバレーの方かもしれない。表1の25対の対立概念のうち、有意性に印のある概念がバレーボールでは8件であるのに対し、ビーチバ

レーでは11件にも及び、1%有意で大きくイメージ変容が起こった概念に関しては、前者1件に対して後者は5件にも上るからである。確かに、歴史の浅いビーチバレーのイメージは定着しておらず、未だ不安定だともいえよう。だが表1からは、一貫した変化の傾向を読み取ることができる。それは、「メジャーな」「なじみのある」「理性的な」の強化である。年々ビーチバレーがメディアに取り上げられる回数が増え、マイナー競技という印象はもはや払拭しつつある。その結果、ルールや競技特性も以前より理解が進み、頭脳的なテクニックが重要な競技であるとの認識が徐々に浸透してきていると解釈できるからである。この変化については筆者も肌で感じている。以前であればスター選手目当てで来場し、競技に関してはまったく無知な観客も珍しくなかった。しかし最近ではスタンドに耳を傾けると、ランキングやプレー内容について熱く語り合うファンの会話が聞こえてくるようになったからである。ビーチバレーは目新しい段階を越え、スポーツ文化の一つとしてまさに根つきつつあるのだろう。その流れが一過性で終わらないためにも、バレーボールの活躍に負けないほどに、ビーチバレーも世界で結果を残すことが、いま強く求められている。

表1. バレーボールとビーチバレーのイメージ比較（年度別平均値の差の検定）

| ID | 対立概念 | | バレーボール | | | | ビーチバレー | | | |
|----|------------|------------|--------|--------|----------|-----|--------|--------|----------|-----|
| | +2 かなりプラス側 | マイナス側 → -2 | 2009 | 2010 | 有意水準 (高) | 有意性 | 2009 | 2010 | 有意水準 (高) | 有意性 |
| 1 | 華やかな | 地味な | 0.238 | 0.580 | 0.6% | ** | 0.592 | 0.880 | 1.3% | * |
| 2 | メジャーな | マイナーな | 0.620 | 0.840 | 7.3% | | -0.270 | 0.080 | 0.5% | ** |
| 3 | かたい | やわらかい | 0.206 | 0.410 | 9.4% | | -0.456 | -0.380 | 53.6% | |
| 4 | 男性的な | 女性的な | -0.168 | -0.160 | 94.7% | | -0.468 | -0.240 | 7.7% | |
| 5 | 開放的な | 閉鎖的な | 0.174 | 0.350 | 16.4% | | 1.120 | 1.320 | 4.6% | * |
| 6 | 開いた | 閉じた | -0.390 | -0.370 | 89.2% | | 1.286 | 1.490 | 4.8% | * |
| 7 | ざらざらした | しっとりした | -0.044 | 0.240 | 1.8% | * | 0.184 | 0.350 | 18.3% | |
| 8 | 大膽な | 慎重な | 0.256 | 0.380 | 30.9% | | 0.818 | 1.100 | 0.8% | ** |
| 9 | 流行の | 昔からある | -0.518 | -0.350 | 20.2% | | 0.604 | 0.600 | 97.1% | |
| 10 | 痛い | 痛くない | 0.526 | 0.630 | 39.0% | | 0.156 | 0.280 | 35.6% | |
| 11 | 汚れる | 汚れない | -0.656 | -0.610 | 70.8% | | 1.002 | 1.180 | 11.8% | |
| 12 | 暑い | 寒い | 0.596 | 0.630 | 76.2% | | 1.362 | 1.450 | 35.0% | |
| 13 | 暑い | 寒い | -0.488 | -0.270 | 8.9% | | -0.566 | -0.470 | 44.8% | |
| 14 | なじみのある | なじみのない | 0.846 | 1.100 | 2.1% | * | -0.342 | -0.020 | 0.9% | ** |
| 15 | 健全な | 不健全な | 1.114 | 1.260 | 7.2% | | 0.814 | 0.980 | 10.8% | |
| 16 | 美しい | 美しくない | 0.480 | 0.760 | 1.1% | * | 0.540 | 0.780 | 3.8% | * |
| 17 | スピード感のある | ゆったりした | 1.174 | 1.210 | 69.0% | | 0.516 | 0.680 | 19.4% | |
| 18 | 楽しい | 苦しい | 0.762 | 1.000 | 2.8% | * | 0.686 | 0.960 | 1.1% | * |
| 19 | 集団的 | 個人的 | 1.182 | 1.400 | 2.6% | * | -0.556 | -0.390 | 18.5% | |
| 20 | 興奮する | 落ち着く | 0.838 | 1.070 | 2.7% | * | 0.598 | 0.930 | 0.2% | ** |
| 21 | 緊張した | リラックスした | 0.698 | 0.800 | 33.3% | | -0.008 | 0.330 | 0.6% | ** |
| 22 | 理性的な | 感情的な | 0.288 | 0.470 | 12.7% | | -0.144 | 0.130 | 2.7% | * |
| 23 | まじめな | ふまじめな | 0.866 | 1.060 | 4.2% | * | 0.334 | 0.520 | 11.1% | |
| 24 | 自由な | 束縛的な | 0.122 | 0.180 | 63.8% | | 0.876 | 1.050 | 8.6% | |
| 25 | マッチョな | スリムな | -0.288 | -0.270 | 88.2% | | -0.012 | 0.190 | 12.3% | |

ゲートウェイ・マイニングの始動

2010年度に新たに着手した研究として「ゲートウェイ・マイニング」が挙げられる。ゲートウェイ (gateway) とは「入口」を意味し、前号で報告した親子間のスポーツキャリアパスも、子供がビーチバレーを行うそのきっかけ (入口) となる親のスポーツキャリアを調べた点でゲートウェイ研究に通じる。他方、マイニング (mining) とは「発掘」とりわけデータ分析の世界では「塵の山から宝を発掘する」として捉えられる。すなわち、より膨大な数の入口候補を用意して調査と解析を行った点が、昨年度との決定的な違いである。

意外な発見を意図した調査設計

2009年度は「わが子にビーチバレーをさせたい親のスポーツキャリア」について調査した。しかし、親のスポーツ経験が子供のスポーツ経験に影響を及ぼすことは自明であるため、定量的な把握に一定の意義はあるとしても、その結果が実務的に大きな示唆をもたらすことは期待できなかった。そこで2010年度は、直接的な因果関係を事前に想定できないような、意外性のある項目群を多数用意し、表2の概要で調査を実施した。★の付いている項目が新設項目である。

表2. 2010年度のインターネット調査概要

| 新設 質問ID | 質問内容 | 項目数 | 調査期間 | 2011/2/23 ~ 3/10 |
|---------|--------------------------|-------|-------|------------------------------------------------------------------|
| ★ Q1 | 子供の頃の習い事経験 | 280 | 調査委託 | 株式会社ネットマイル |
| ★ Q2 | 学生時代のスポーツ経験 | 300 | サンプル数 | 9,477名 |
| ★ Q3 | 学生時代の所属文化団 | 75 | | |
| ★ Q4 | 現在行っているスポーツ / 将来行いたいスポーツ | 140 | | 16-20歳: 男性 664名 / 女性 813名 21-25歳: 男性 1,000名 / 女性 1,000名 |
| ★ Q5 | 現在行っている余暇活動 / 将来行いたい余暇活動 | 112 | | 26-30歳: 男性 1,000名 / 女性 1,000名 |
| ★ Q6 | 子供に行ってほしい習い事 | 64 | | 31-35歳: 男性 1,000名 / 女性 1,000名 |
| ★ Q7 | 子供にやってほしいスポーツ | 154 | | 36-40歳: 男性 1,000名 / 女性 1,000名 |
| ★ Q8 | 子育てに関する価値観 | 36 | | |
| ★ Q9 | スポーツニュースへの関心 | 67 | | |
| ★ Q10 | スポーツブランドの嗜好 | 133 | | |
| | 合計 | 1,361 | | |

高い具象性をもたらすペルソナ想起

データ解析手法は、前回同様の関連ルール (Association-Rules) を用いた。紙幅に限られるため、女性サンプル (母親想定層) において「ビーチバレーニュースに関心がある」 (Support=0.9%) をOUTPUT変数とした場合に、関連の高いINPUT変数群の抜粋のみを表3に示す。この結果は具象性が高すぎ、一般的には理解不能である。しかし長年ビーチバレーに携わってきた専門家が眺めれば次のように解釈できる。

自身がバレーボール経験者であり、アウトドアやマリンスポーツに関心が高い (したがって好きなブランドにもサーフブランドが含まれる) 点は既出の知見だが、興味深い発見が2点指摘できる。

一つは「流行りものに敏感」な点であり、その傾向を説明するのが、現在行っている「DVD / テレビゲーム利用のエクササイズ」や、関心のあるスポーツとしての「海外サッカー」「MLB」である。すなわち、ビーチバレーもこれらの「流行りのスポーツ」の一つとして、彼女たちの関心事になっている可能性がある。

そしてもう一つは、「娘を有名にしたい」という価値観ではなからうか。子育て観の「夢見因子」とは具体的には「将来子供には有名になってほしい」という質問にYesと回答した場合が該当する。自身が「バレー」「合唱」「演劇」の経験者であり、女の子にさせたい習い事に「合唱 / コーラス」「演劇 / ミュージカル」などが挙げられている点もその証左といえよう。現在ビーチバレー界にはアイドル

が存在する。その選手をモデルケースに、いわゆる「ステージママ」たちの関心もビーチバレーは集めていると解釈できる。

このようにゲートウェイ・マイニングは、その出力結果が詳細すぎるために結果それ自体に学術的価値を主張することは難しい。だが実務家が普及活動を行う際に必要とされる新規顧客の鮮明なプロフィール描写 (ペルソナ想起) を助けるならば、そこには方法論としての価値が認められるに違いない。本研究はまだ始動したばかりである。「調査」と「現場」との連携をより緊密にしながら、当該研究を進展させていきたい。

表3. 自分の子供 (女の子) にビーチバレーをさせたい女性のライフスタイル変数

| 質問ID | 質問内容 | カテゴリ | 項目名 | 統計量 | | |
|-----------------|----------|--------|-----------------------------|-------------|---------------|--------|
| | | | | Support (%) | Confidenc (%) | Lift |
| Q1 | 習い事経験 | 幼児期 | 音遊び / リズム遊び (幼児音楽教室) | 2.8 | 3.7 | 4.348 |
| | | | バレエ | 3.3 | 3.2 | 3.715 |
| Q2 | 運動部経験 | 幼児期 | 水泳 | 5.8 | 2.5 | 2.956 |
| | | | バレーボール | 6.0 | 3.8 | 4.437 |
| | | 小学校高学年 | バレーボール | 7.5 | 3.6 | 4.216 |
| | | | 水泳 | 3.5 | 3.0 | 3.473 |
| | | | バレーボール | 3.0 | 6.9 | 8.096 |
| Q3 | 文化部経験 | 高校 | バスケットボール | 2.6 | 3.2 | 3.727 |
| | | | 合唱 | 2.7 | 3.1 | 3.668 |
| | | | 演劇 | 2.9 | 3.6 | 4.193 |
| Q4 | スポーツ活動 | 現在 | ジョギング・ランニング | 6.0 | 3.8 | 4.468 |
| | | | スノーボード | 2.8 | 4.4 | 5.141 |
| | | | ヨガ | 3.9 | 3.2 | 3.727 |
| | | | DVDを利用したエクササイズ | 3.1 | 4.1 | 4.759 |
| | | | テレビゲームによるエクササイズ | 2.6 | 4.7 | 5.546 |
| | | 将来 | ダイビング | 2.7 | 6.1 | 7.169 |
| | | | ゴルフ | 3.6 | 4.0 | 4.750 |
| | | | ジョギング・ランニング | 14.3 | 2.6 | 3.080 |
| | | | スキューバダイビング | 3.1 | 3.4 | 3.939 |
| | | | 登山 | 3.3 | 5.6 | 6.603 |
| | | | ハイキング | 2.9 | 6.5 | 7.656 |
| | | | スキー | 3.9 | 4.8 | 5.590 |
| | | | スノーボード | 4.6 | 4.5 | 5.336 |
| | | | 自転車 (屋外) | 7.0 | 4.7 | 5.573 |
| | | | ビリヤード | 6.3 | 3.7 | 4.290 |
| ベリーダンス | 3.3 | 4.5 | 5.234 | | | |
| 乗馬 | 3.8 | 4.3 | 5.104 | | | |
| DVDを利用したエクササイズ | 5.8 | 2.9 | 3.366 | | | |
| テレビゲームによるエクササイズ | 5.8 | 3.2 | 3.787 | | | |
| エアロビクス | 3.6 | 5.2 | 6.143 | | | |
| Q5 | 余暇活動 | 現在 | スポーツ観戦 (競技場などで) | 9.9 | 3.1 | 3.692 |
| | | | ドライブ・ツーリング | 8.3 | 2.5 | 2.942 |
| | | | キャンプ・釣り | 4.1 | 5.0 | 5.899 |
| | | | スポーツ中継視聴 | 17.2 | 3.0 | 3.553 |
| | | | DVDを利用したエクササイズ | 14.3 | 3.0 | 3.573 |
| | | 将来 | ドライブ・ツーリング | 10.8 | 2.5 | 2.935 |
| | | | キャンプ・釣り | 7.5 | 3.9 | 4.540 |
| | | | スポーツ中継視聴 | 15.5 | 2.8 | 3.305 |
| | | | ドライブ・ツーリング | 2.7 | 3.1 | 3.668 |
| | | | 演劇 / ミュージカル | 3.0 | 2.8 | 3.261 |
| Q7 | させたいスポーツ | 女の子 | 馬術 | 3.0 | 2.8 | 3.261 |
| | | | ラクロス | 2.7 | 3.1 | 3.640 |
| Q8 | 子育て観 | 因子 | 夢見因子 | 5.3 | 2.8 | 3.235 |
| | | | スポーツ関心 | 7.5 | 4.1 | 4.851 |
| Q9 | スポーツ関心 | 競技名 | 海外サッカー | 6.0 | 6.2 | 7.312 |
| | | | ゴルフ | 4.5 | 6.9 | 8.077 |
| | | | MLB | 13.6 | 4.9 | 5.726 |
| | | | バレーボール | 2.6 | 19.4 | 22.721 |
| | | | 高校バレー | 5.3 | 5.1 | 5.961 |
| Q10 | ブランド嗜好 | ブランド名 | ミス / (MIZUNO) | 6.8 | 4.0 | 4.681 |
| | | | ユニクロ (UNIQLO) | 2.9 | 4.3 | 5.031 |
| | | | ヨネックス (YONEX) | 2.8 | 4.4 | 5.217 |
| | | | リーボック (Reebok) | 3.4 | 4.3 | 5.011 |
| | | | ロキシー (ROXY) | 7.5 | 4.7 | 5.559 |
| | | | アシックス (ASICS) | 2.5 | 4.1 | 4.811 |
| | | | エレッセ (ellesse) | 2.8 | 5.1 | 5.998 |
| | | | ザ・ノース・フェイス (THE NORTH FACE) | 3.0 | 7.0 | 8.267 |
| | | | デサント (DESCENTE) | 6.1 | 3.8 | 4.407 |
| | | | ニューバランス (New Balance) | 2.5 | 3.4 | 3.979 |
| | | | パタゴニア (Patagonia) | 4.6 | 6.8 | 7.932 |
| | | | フィラ (FILA) | 12.4 | 3.4 | 3.939 |
| | | | プーマ (PUMA) | | | |

主要参考文献

- Agrawal, R., T. Imielinski, and A. N. Swami (1993); "Mining Association Rules between Sets of Items in Large Databases", Proc. of the ACM SIGMOD Conference on Management of Data, pp.207-216.
- Berry, Michael J. A. and Gordon S. Linoff (1997); Data Mining Techniques: For Marketing, Sales, and Customer Support, John Wiley & Sons. Cooper, Alan (1999); The Inmates Are Running the Asylum, SAMS.
- 原田和弘・中村好男 (2009); 「身体活動・運動への興味を高める方策としての趣味・余暇活動ゲートウェイの可能性」, 「スポーツ産業学研究」, Vol.19, No.2, pp.129-143.
- 大澤幸生 (2002); 「チャンス発見におけるデータマイニング」, 「計測と制御」, Vol.41, No.5, pp.325-330.

将来を考えた指導と 環境づくり

NPO 法人湘南ベルマーレスポーツクラブ
トライアスロンチーム ヘッドコーチ 中島 靖弘

トライアスロンは世界選手権が毎年行われ、エリート部門だけでなく、同じ日程の中にジュニア(16～19歳)、23歳以下(18～23歳)のカテゴリーも開催され、若手選手が、早い段階から、世界各地の強豪選手の強さを肌で感じることができます。トライアスロンのエリート部門で活躍する選手たちの年齢は25歳以上が多数を占め、マラソンなどの持久系種目とパフォーマンスのピーク年齢は同様です。これは、質の高いトレーニングを強い意志、課題解決方法を考えながら、積み重ねてゆくことで、身体が高いパフォーマンスを発揮するための準備ができてゆくということです。

ジュニアカテゴリー、23歳以下カテゴリーの世界選手権に出場し、高い競技力を早い段階から発揮させることも必要ですが、競技成績ばかりが先に立ち、身体的、精神的な負荷が高すぎて、競技を続けられなくなってしまうことは避けなければなりません。他の競技同様、競技は年々スピード化され、若い年代から質の高いトレーニングが必要になり、高い目標を持たせてトレーニングをしてゆかなければなりません。前述のように25歳以上というピーク年齢も意識した指導をしてゆかなければなりません。その選手のピークである時期に、より高いパフォーマンスを発揮させるために、スポーツをやりたいと思う子供たちの才能を見出し、発育、発達の状況に合わせて適切な体力的、技術的なトレーニングを行い、競技に関する精神力、知識を習得させてゆく必要があります。どんなに才能がある選手でもピークパフォーマンスを発揮する年齢までスポーツを続けることができなければ、そのパフォーマンスは発揮できません。

最初に考えるべき事は、長く続けられるようにスポーツと付き合わせる事。スポーツそのものを楽しみ、より高いステージでライバルと競い合う事を楽しみ、感じさせることがポイントになると思います。

とくに小学生、中学生の段階では、勝負に拘らず、どんなスポーツにも役に立つ身のこなし、技術を習得し、ひとつずつ「できなかったことができるようになった！」というステップアップしてゆく喜びを感じさせることが大切です。

ここ数年日本オリンピック委員会や、各中央競技団体は、オリンピックや世界選手権などで高いパフォーマンスを発揮するために、語学のトレーニングやメディアトレーニングなども積極的に取り入れています。海外にでて、日本と違う文化、環境の中で、様々なプレッシャーの中でも平然と自分の持っている力を発揮するためのトレーニングです。これは中央競技団体だけでなく、地域のスポーツクラブでも将来を考え、トレーニングや戦術、身体のことだけでなく、競技に関係するすべての事に準備をしてゆくことが必要です。これらの事は、競技をやめてからも役に立つことです。

また、25歳という年齢は、大学を卒業し、一般的には就職をして自分自身で生活をしてゆかなければならない年齢です。この年齢まで競技中心の生活をするための経済的基盤も作らなければなりません。

現在、日本国内で、トライアスロンだけで生活ができていない選手は20名程度。ほかの選手は、親からの支援や、午前中から昼すぎにかけてトレーニングをし、夕方からアルバイトなどで生活費、遠征費を稼いでいます。

トライアスロンは、競技特性上、トレーニング時間が長く、疲労回復の時間も質の高いトレーニングを行い続けるために重要なポイントとなります。育成の段階でも経済的支援ができる環境を作り上げてゆく必要もあります。

質の良いトレーニングを提供するだけでなく、その選手が高いレベルの大会にでるタイミングを考え、その時の環境も考えて育成する事を心がけ、その基盤を作ってゆきたいと考えております。

研究員紹介

Staff

■ 研究所長



宮内 ミナミ

産業能率大学
情報マネジメント学部
学部長 / 教授

■ 研究員



渡邊 隆嗣

産業能率大学
情報マネジメント学部 教授

■ 研究員



長岡 健

法政大学 経営学部 教授
(2011年3月までスポーツマネ
ジメント研究所研究員)

■ 研究員



中川 直樹

産業能率大学
情報マネジメント学部 准教授

■ 研究員



木村 剛

産業能率大学
情報マネジメント学部 准教授

■ 研究員



小野田 哲弥

産業能率大学
情報マネジメント学部 准教授

■ 客員研究員



川合 俊一

日本ビーチバレー連盟 会長
横ヶイ・プロス代表

■ 客員研究員



川合 麻

日本バレーボール協会
ビーチバレー強化委員会 副委員長
産業能率大学
女子ビーチバレー部 ヘッドコーチ
産業能率大学
情報マネジメント学部 兼任講師

■ 客員研究員



水谷 尚人

㈱ SeaGlobal 代表取締役
産業能率大学
情報マネジメント学部 兼任講師

■ 客員研究員



西野 努

㈱ SeaGlobal 取締役
産業能率大学 客員教授

■ 客員研究員



中島 靖弘

NPO 法人湘南ベルマーレスポ
ーツクラブ トライアスロンチーム
ヘッドコーチ
産業能率大学
情報マネジメント学部 兼任講師

■ 客員研究員



安藤 美佐子

NPO 法人湘南ベルマーレスポ
ーツクラブ ソフトボールチーム 監督
産業能率大学
情報マネジメント学部 兼任講師

編集 後記

2011年3月11日、東日本を大震災が襲いました。犠牲となられた方々に心からお悔やみ申し上げます。そして、被災された方々にお見舞いを申し上げ、一日も早い安全の回復と復興をお祈りいたします。多くの困難に直面し、私たちはこれまで以上に、社会のあり方や人々の幸せについて、また、自分ができることは何かということを考えているのではないのでしょうか。

2010年度の研究所活動を紹介する本誌第3号では、「湘南から世界へ」というテーマのもと、夢に向かってひたむきに努力する若い選手たちの輝きと、未来へ繋がる子供たちに関わる活動にスポットを当て、特集を企画しました。研究報告とあわせてお読みいただければと思います。

これからも、スポーツマネジメント研究所の活動を通じて、「希望を持って前に進むことの大切さ」「選手・チームの育成、成長」「社会や人々とのコラボレーション」「スポーツを通じた豊かさ」について発信していきたいと思っています。よろしくお祈りいたします。

(M)

スポーツマネジメント研究所

SANNO University Sports Management Research Center

スポーツマネジメント研究所は
スポーツ分野にマネジメントを適用する観点から
スポーツビジネスに関する様々な活動を通じて、
実証研究を行います

2004年1月に、プロサッカーJ2の湘南ベルマーレと提携関係を結び、
情報マネジメント学部の授業科目の共同開発、大学の行事や活動への協力など、
数々の取り組みを展開してきました。

また、2007年1月にプロ野球の横浜ベイスターズとも提携し、
傘下の湘南シーレックスの試合運営を題材とした科目を立ち上げています。

2007年度から、情報マネジメント学部に「スポーツマネジメントコース」を設置し、
スポーツ分野におけるマネジメントの研究と教育を行っています。

そして、2007年10月、これまでの活動を体系化し、実践に向けた応用研究へと発展を図るため、
大学付属施設としてスポーツマネジメント研究所は設置されました。

研究員による研究報告やコラムなど掲載しています

<http://smrc.mi.sanno.ac.jp/smrc/>

■ 産業能率大学 スポーツマネジメント研究所

〒259-1197 神奈川県伊勢原市上粕屋 1573 / TEL: 0463-92-2211(代表) / FAX: 0463-91-4303 / Mail: infosmrc@mi.sanno.ac.jp

■ 産業能率大学 collaboration with 湘南ベルマーレ スポーツ教室

スポーツマネジメント研究所では、研究活動の一環として、湘南ベルマーレと共同で
「産業能率大学 collaboration with 湘南ベルマーレ スポーツ教室」を毎月開催しています。
本学の施設と、湘南ベルマーレスポーツクラブのスタッフそしてノウハウを活用した、サッカー、フットサル、健康づくり、ビーチバレー、バレーボール、
ソフトボールの6種目によるスポーツ教室は、初心者の方はもちろん、ご年配の方々まで、これまで多くの方にご参加頂きました。
地域に開かれたスポーツクラブの運営を目指し、多くの方々のご参加をお待ちしております。

産業能率大学 collaboration with 湘南ベルマーレ ホームページ: <http://smrc.mi.sanno.ac.jp/scwsblog/>

SANNO SPORTS MANAGEMENT

Vol.03

Editor in Chief

宮内 ミナミ Minami MIYAUCHI

Editorial Staff

小野田 哲弥 Tetsuya ONODA

長瀬 綾乃 Ayano NAGASE

Design

石井 あゆみ Ayumi ISHII (ナイザノア)

SANNO SPORTS MANAGEMENT Vol.03

2011年(平成23年)7月発行

< 編集 / 発行 >

産業能率大学 スポーツマネジメント研究所

〒259-1197 神奈川県伊勢原市上粕屋 1573

TEL:0463(92)2211

©The SANNO Institute of Management. All rights reserved.